

2023年度第3回研究例会

実施日:2024年1月31日(水) @社会福祉学部棟 301講義室

①報告者 : 藤居由香先生

報告テーマ:「家政学・住居学を基盤とした住生活支援と地域居住環境

—教育と研究の距離感—」

【報告要旨】

1. 家政学と住居学の特徴
2. 人間工学、福祉住環境の教育と研究の違い
3. 住宅と住まい方の教育と研究、住生活学と住生活支援
4. 都市計画・まちづくりの研究、地域居住学と地域居住環境

・これまで取り組んだ研究の分類

- ①地域の居住性を高める研究（人間と地域との関係を明らかにする）
居住者への聞き取り調査・現地実測調査・行政施策調査結果から分析
- ②住宅の居住性を高める研究（人間と住宅との関係を明らかにする）
住宅及び人体の寸法計画調査・環境機器測定結果から分析
- ③日常の生活を支援する研究（人間と生活との関係を明らかにする）
アンケート調査・実地調査を実施し統計データを分析

・研究の目標：行政施策に採り入れられる可能性を内包した研究成果を得る

・教育の目標：学生達が社会人一年目を円滑に過ごせるように住居学を通して導く

学生への教育と卒業研究指導・産官学型の社会連携・居住者との地域連携・教員の個人研究を、分離せずに一体化させ取り組むことが、一つの方策だと考えるに至った。

②報告者 : 若林陽子先生

報告テーマ:「ろう者と聴者の協働による演劇活動の研究:

デフ・パペットシアター・ひとみに着目して」

【報告要旨】

本報告「ろう者と聴者の協働による演劇活動の研究: デフ・パペットシアター・ひとみに着目して」では、「デフ・パペットシアター・ひとみ」という聴者とろう者がともに活動する劇団の演劇表現を例に、ただ時空間を共有することだけではなく、ろう者と聴者の共有可能な楽しみを創出することによってインクルーシブネス（包摂）が成立する契機を示唆した。その背景には、同劇団の表現が、手話の舞台通訳による演劇とも手話を主体とした演劇とも異なる特徴をもつことが関係していると考えられる。具体的に、同劇団の表現では手話は舞台上の物語を構成する複数の要素の1つととらえられており、人形劇団・ひとみ座を母体とする出自を生かした大小さまざまな人形、音、声、文字、光、そして舞台上にさらされた人形操演者である俳優の豊かな身振り手振りも含めた総体が、同劇団の特

徴である。最後に、同劇団がろう学校だけでなくさまざまな学校であるいは交流学習でワークショップを行っていることに着目し、演劇を通じたインクルーシブな芸術教育の可能性について提案した。